

○平均在院日数

- ・ 3階（急性期）が27日、4階（療養）が6ヶ月未満

○チーム医療

- ・ 医療安全、感染、褥瘡、NSTに関する委員会を立ち上げている。

○クリティカルパス

- ・ 使用中（糖尿病教育入院など）

○特色

- ・ 種々雑多な病気に対応できること。
- ・ 胃カメラを待たずに受けられること。
→ 実績は、上部内視鏡のピーク時が2,500人で今は2,000人
大腸は3~4人/週（150人/年）

○その他

- ・ 特別養護老人ホーム「なの花荘」の嘱託医として、1回/週回診している。
- ・ 「気管切開」2人、「胃ろう」20人位
- ・ 休日診療所の役割として、休日一午前中（小児科・内科）、午後（小児科・外科）、夜間（内科）の診療を行っている。休日診療所は、数ヶ月に1回、鶴岡市医師会からの要請に応えている。

○今後のことなど

- ・ 診療報酬改正と医療制度改革のダメージを何とかするため、ショートステイの展開やデイケアの実施を進めている。
- ・ 訪問介護、グループホームは、今後の検討課題である。
- ・ 鶴岡協立病院は冬場ほぼ満床（鶴岡市立荘内病院も同様）となるので、ここがその受皿にならないと大変になる。このように融通のきく病院が必要だと思っている。
- ・ 鶴岡市立荘内病院が新築されてから同院志向が強くなったようだ。ただし、自治体立病院の対応がよくないという以前からの指摘は解消されていないという声を聞く。

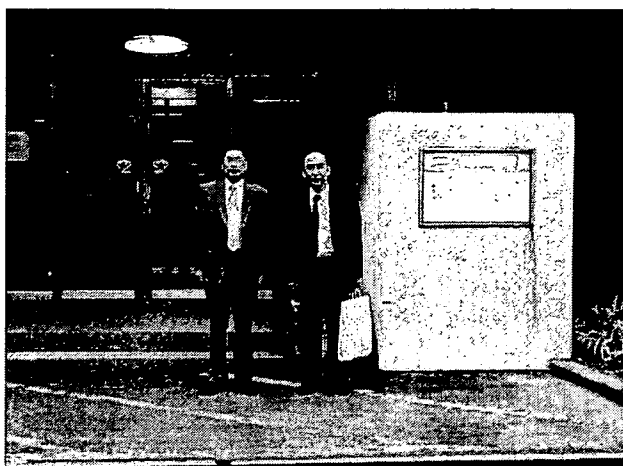
【斎藤胃腸科病院】

■訪問日：平成18年6月28日（水）17：05～18：20

■対面者：三浦二三夫院長

■訪問者：（山形大学）清水博教授、船田孝夫助教授
（山形県健康福祉部）佐藤泰幸企画主査

項目		項目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印				
病床数(現在)	70床	常勤医師	4人	訪問看護ステーション				
一日平均外来患者数	120人	非常勤医師(常勤換算で)	0.5人	訪問リハビリステーション				
病床利用率(※平成17年度)	62.2%	標準医師数%	%	地域包括支援センター				
平均在院日数(※)	13.5日	産科医(再掲:常勤換算で)	人	介護療養型医療施設				
紹介率(※)	6.4%	小児科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人保健施設				
逆紹介率(※)	6.4%	麻酔科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人福祉施設				
救急患者数(平日)(※)	171人/年	歯科医師	0人	認知症高齢者グループホーム				
救急患者数(休日)(※)	402人/年	薬剤師	1人	特定施設入居者生活施設				
救急患者数(救急車搬送)(※)	39人/年	看護師	58人	軽費老人ホーム(ケアハウス)				
手術件数(全麻)(※)	96件/年	助産師(兼任を含む)	0人	有料老人ホーム				
手術件数(局麻)(※)	67件/年	診療放射線技師	1.0人	小規模多機能型施設				
分娩数(※)(うち帝王切開)	件/年()	臨床検査技師	3.4人	高齢者向け優良賃貸住宅				
収支(平成17年度決算)	黒字(赤字)	理学療法士:PT	0人	看護学校				
△3.16%改定の影響	あり・なし	作業療法士:OT	0人	リハビリテーション病院				
△3.16%の影響ありの場合	%	言語聴覚士:ST	0人	診療所				
クリティカルパスの使用	あり・なし	臨床工学技士	0人	保育所				
医療ソーシャルワーカー:MSW	1人	診療情報管理士	人	その他()				
事務職	11人	栄養士(2.0)人、このうち再掲	管理栄養士(2.0)人					
地域連携室(再掲)		看護師			人			
医師(兼任を含む)	1人	医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW			1人			
事務職(兼任を含む)	1人	その他()			人			
主な設備	電子カルテ	導入済・検討中・予定なし	オーダーリング	導入済・検討中・予定なし				
CT	0台	内訳: マルチスライス(台)、ヘリカルCT(台)、その他(台)						
MRI	0台	内訳: 1.5T以上(台)、1.0T(台)、0.5T(台)、0.4以下(台)						
リニアック	0台	透析機器	台	透析実患者数	人			
重要度別必要医師数及び医療スタッフ数 A,B,C欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要								
	必要人数計	A	B	C	必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	1人	1人	人	人	耳鼻咽喉科医	人	人	人
循環器呼吸器内科医	人	人	人	人	眼科医	人	人	人
消化器内科医	人	人	人	人	産婦人科医	人	人	人
小児科医	人	人	人	人	麻酔科医	人	人	人
外科医(一般)	1人	1人	人	人	放射線科医	人	人	人
循環器呼吸器外科医	人	人	人	人	その他(科医)	人	人	人
消化器外科医	人	人	人	人	看護師	人	人	人
脳神経外科医	人	人	人	人	コメディカル			
整形外科医	人	人	人	人	()	人	人	人



<課題>

- 1 専門医療（消化器疾患）の充実

<Flag>

- 1 消化器疾患（特に胃・大腸）の医療
- 2 在宅医療

<9つの主な事業>

- ① がん対策
→ある程度の診断をして鶴岡市立荘内病院へ紹介。生活習慣病対策
- ② 脳卒中対策
→鶴岡市立荘内病院へ紹介。生活習慣病対策
- ③ 急性心筋梗塞
→鶴岡市立荘内病院へ紹介
- ④ 糖尿病対策
→重症の場合は鶴岡市立荘内病院へ紹介。生活習慣病対策
- ⑤ 小児救急を含む小児医療対策
→小児科の重症患者は鶴岡市立荘内病院へ紹介
- ⑥ 周産期医療
→鶴岡市立荘内病院へ紹介
- ⑦ 救急医療
→救急告示病院ではないので、鶴岡市立荘内病院へ紹介
- ⑧ 災害医療対策
→現在是对応していない。
- ⑨ へき地医療対策
→現在是对応していない。

<現状と課題>

○ 連携について

- ・ 鶴岡市はうまく行っている方だと思う。
- ・ 鶴岡市立荘内病院では、必ず紹介状を持って来いと言われるほど徹底している。

○ 医師不足について

- ・ 現在内科 1 人、外科 3 人。(消化器専門)
- ・ 富山医科薬科大から、多いときは 4 人来てもらっていた。ローテーターは以前の 2 人から 1 人になった。
- ・ 現在は毎日の診療行為も容易に回らなくなるほど大変になっている。たとえば、内視鏡、超音波検査は時間を区切ってやっている。また、以前は 14:00 から実施していたものを 15:00 からに時間をずらして何とかやっている。

<9つの主な事業について>

○がん

- ・ 胃・大腸がんについては、ここで対応している。また、内視鏡手術(治療内視鏡)も行っている。
- ・ 肝臓については、鶴岡市立荘内病院へ送る。
- ・ 食道については、以前はやっていたが、3人ではできないので、化学療法をここでやって、放射線治療は鶴岡市立荘内病院でやってもらっている。
- ・ 麻酔は、週 1 回地元の開業医の先生に手術日に来てもらっている。(当先生は麻酔科、内科を標榜)。火曜日の午後は、外科医が麻酔も担当している。外科医が外来担当日には、麻酔が安定したら外来へ降りてくる。
- ・ 乳房、甲状腺の術後は、鶴岡市立荘内病院に化学療法と放射線治療の双方の分担で対応している。

○脳卒中

- ・ 脳梗塞などの患者も来るが、速やかに回している(鶴岡市立荘内病院へ)。

○急性心筋梗塞

- ・ 鶴岡市立荘内病院へ送っている。

○糖尿病

- ・ 重症の場合は紹介している。

○小児医療

- ・ 外傷程度はここで対応している。

○救急医療

- ・ 救急告示病院ではない。
- ・ 冬場は、他の医療施設が満床の場合に入院患者を受けている。

○在宅医療

- ・ 「在宅支援室」を設置しており、月 1 回往診している。外科系患者 5~6 人を診ている。
- ・ 訪問看護ステーションを隣接している。職員は、専属で 3 人(保健師 2 人、看護師 1 人)を配置している。主に退院後のフォローなどに当たっている。

○医師の年齢構成及びニーズ

- ・ 内科：43～44 才、外科：40 才弱、50 代、60 代
- ・ 医師がいないのが分かっているからあまり言われたい。
医師確保のため地元開業医の子息などにネットワークをめぐらしているが、確保はなかなか難しい。

○医療スタッフ

- ・ 看護師：46 人(病棟)+9 人(外来)+3 人(中材・手術)=58 人
- ・ 一般病床は看護師の割合が多い。
- ・ 医療相談室 4 人、薬剤師 2 人、放射線技師 1 人、検査技師 3 人、栄養士 2 人、調理師 7 人、経理 1 人、庶務 3 人、医事 7 人、事務 11 人
- ・ 在宅支援室は、MSWが 1 人
- ・ 福祉及び訪問看護等はまだやっていない。

○病床構成

- ・ 療養病床 25 床、一般病床 44 床、計 79 床

○△3. 16%の診療報酬改定の影響

- ・ 4～5 月はまだそれほどの影響はない。

○前方連携(紹介)

- ・ 市内の診療所から急性期または悪性腫瘍が多い。また、治療内視鏡の依頼もある。

○後方連携(逆紹介)

- ・ 胆石は、術後落ち着いたらかかりつけ医へ送る。
- ・ 胃切除、大腸切除は、患者がここでのフォローを希望した場合以外は紹介している。

○今後の対応策

- ・ なかなか難しい。その時その時で対応するしかないと考えている。在宅に展開したいが、マンパワーが必要となる。

○患者の構成

- ・ 平均在院日数は 13.5 日程度
- ・ 療養病床はしぼりがない限り、半年は診ましようという考え。経管栄養、吸痰などの患者が多い。現在、社会的入院は少ない(現在 12～13 人程度)。

○在宅に戻れない理由

- ・ 老々介護や日中誰もいないケースが多い。
- ・ 悪性腫瘍のターミナルは、療養では対応が難しいが、ギリギリまで療養で面倒を見ている。

○在宅療養支援診療所

- ・ 今のところは考えていない。

○収支

- ・ 赤字。銀行から借金があるので厳しい。
- ・ 病床利用率：現在、療養病床が 50%、一般病床が 30～35%

○老人保健施設・特別養護老人ホームとの連携

- ・ 入所中に具合が悪くなり、ここで対応することがある。「水ばしょう」(老人保健施設)か

らの患者が多い。また、そのまま入院するケースも多い。施設にこちらから出かけて行く時間はない。

○へき地

- ・ へき地医療機構及び地域医療振興協会への働きかけや利用はない。

○電子カルテ

- ・ オーダリングはない。電算はレセプトレベル
- ・ 病棟は医師が手書きして、看護師がコンピュータ入力を行っている。

○その他

- ・ 土・日の救急患者は、3~4人/日。整形については、患者は他の医療機関に送っている。
- ・ 東京都内の大学の基礎系医師2~3人来てもらっている(縁故を伝って)。
- ・ 市内の外科医が減っている。鶴岡協立病院、宮原病院、当院とのネットワークが構築できればよいと考えている。

【鶴岡協立病院】

■訪問日：平成18年6月28日（水）11：00～13：10

■対面者：佐藤満雄院長、岩本鉄矢副院長

■訪問者：（山形大学）清水博教授、船田孝夫助教授
（山形県健康福祉企画課）佐藤泰幸企画主査

項 目		項 目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印				
病床数(現在)	244床	医 療 ス タ フ	常勤医師	8人	訪問看護ステーション			
一日平均外来患者数	人		非常勤医師(常勤換算で)	8.3人	訪問リハビリステーション			
病床利用率(※平成17年度)	80%		標準医師数%	%	地域包括支援センター			
平均在院日数(一般)	21日		産科医(再掲:常勤換算で)	人	介護療養型医療施設			
紹介率	8～9%		小児科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人保健施設			
逆紹介率(※)	8～9%		麻酔科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人福祉施設			
救急患者数(平日)(※)	人/年		歯科医師	0人	認知症高齢者グループホーム			
救急患者数(休日)(※)	人/年		薬剤師	5人	特定施設入居者生活施設			
救急患者数(救急車搬送)(※)	人/年		看護師	86人	軽費老人ホーム(ケアハウス)			
手術件数(全麻)(※)	件/年		助産師(兼任を含む)	2人	有料老人ホーム			
手術件数(局麻)(※)	件/年		診療放射線技師	6.0人	小規模多機能型施設			
分娩数(※)(うち帝王切開)	件/年()		臨床検査技師	18.7人	高齢者向け優良賃貸住宅			
収支(平成17年度決算)	黒字・赤字		理学療法士:PT	2.0人	看護学校			
△3.16%改定の影響	あり・なし		作業療法士:OT	3.0人	○ リハビリテーション病院			
△3.16%の影響ありの場合	%		言語聴覚士:ST	0人	○ 診療所(3箇所)			
クリティカルパスの使用	あり・なし		臨床工学技士	3.0人	保育所			
医療ソーシャルワーカー:MSW	2.0人		診療情報管理士	人	○ その他(高齢者住宅)			
事務職	43.7人		栄養士(4.0)人、このうち再掲 管理栄養士(3.0)人					
地域連携室(再掲)			看護師		人			
医師(兼任を含む)		人		医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW 人				
事務職(兼任を含む)		人		その他() 人				
主な設備	電子カルテ	導入済・検討中・予定なし	オーダリング	導入済・検討中・予定なし				
CT	1台	内訳: マルチスライス(台)、ヘリカルCT(台)、その他(台)						
MRI	1台	内訳: 1.5T以上(台)、1.0T(台)、0.5T(台)、0.4以下(台)						
リニアック	0台	透析機器	台	透析実患者数	人			
重要度別必要医師数及び医療スタッフ数 A,B,C欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要								
	必要人数計	A	B	C	必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	人	人	人	人	耳鼻咽喉科医	人	人	人
循環器呼吸器内科医	人	人	人	人	眼科医	人	人	人
消化器内科医	人	人	人	人	産婦人科医	人	人	人
小児科医	人	人	人	人	麻酔科医	人	人	人
外科医(一般)	人	人	人	人	放射線科医	人	人	人
循環器呼吸器外科医	人	人	人	人	その他(科医)	人	人	人
消化器外科医	人	人	人	人	看護師	人	人	人
脳神経外科医	人	人	人	人	コメディカル			
整形外科医	人	人	人	人	()	人	人	人



<課題>

- 1 医療・介護・福祉のトータルケアの充実
- 2 鶴岡市立荘内病院、県立日本海病院及び市立酒田病院との連携の強化

<Flag>

- 1 包括医療（回復期から在宅まで）
- 2 地域医療（診療所支援）
- 3 検診
- 4 透析医療
- 5 運動療法（リハビリからフィットネスまで）
- 6 高齢者住宅

<9つの主要事業>

- ① がん対策
→胃・大腸を除いて、ある程度の診断をして鶴岡市立荘内病院、県立日本海病院へ紹介
- ② 脳卒中对策
→生活習慣病対策
- ③ 急性心筋梗塞
→鶴岡市立荘内病院へ紹介
- ④ 糖尿病対策
→透析治療を推進し、生活習慣病対策
- ⑤ 小児救急を含む小児医療対策
→小児科の重症患者は鶴岡市立荘内病院への紹介
- ⑥ 周産期医療
→初期医療のみ当院で対応、重症は鶴岡市立荘内病院へ紹介
- ⑦ 救急医療
→救急隊が判断して、重症の場合、鶴岡市立荘内病院等に振り分ける。
- ⑧ 災害医療対策
→現在は対応していない。
- ⑨ へき地医療対策
→現在は対応していない。

<現状と課題>

○医師不足の問題

- ・ 開業医志向の問題。開業医のやる範囲はほぼ決まっている。1次から1次半医療を担い、在宅診療、General 領域を担当する。一部は二次的医療を担っているところもある。
- ・ 一方勤務医はチームワークが重要である。開業すれば縛られない。今言われている医師不足は、勤務医不足のこと。
- ・ 我々にとっては日当直の問題も大きい。大学病院からも距離があり、パート医もなかなか確保できない。このため、東京からわざわざ飛行機で来てもらっている状況にある。
- ・ 勤務医へのしわ寄せや負担感が大きいことが、開業へ向かわせていると思う。
- ・ 医師不足の理由を解消するために、分業、細分化、そして女医の増加への対応なども十分考慮する必要がある。
- ・ 外来では、患者をすぐにはさばけない。モニターを見て、操作しながら患者への説明やインフォームドコンセントをする必要があり、今までの倍は診療時間がかかる。慢性患者40人を昔は診察できたが、今はその1/2しか診られない。よく言えば診療が丁寧になったということ。

○患者のニーズへの当院の対応

- ・ 患者の要望に応えようとし、診療科を拡大してきた。
- ・ 医療の連携を患者も望むようになってきたと思う。連携先として、鶴岡市立荘内病院、県立日本海病院、市立酒田病院に全面的に応えてもらっている。
- ・ 患者の不満・不安はそれほどないはず。

<9つの主たる事業について>

○がん

- ・ 検診の受診者が多い。(医療生協の会員を中心に)
- ・ 医師会健診センターの受診者10数万件のうちここで1万件位を扱っている。
- ・ ドック受診者は年間3千人を超える。
- ・ 食道外科の専門医を有している。
- ・ 麻酔科医はいない。
- ・ 胃・大腸の手術は実施している。
- ・ 肺がんは、放射線治療が必要な場合は鶴岡市立荘内病院か県立日本海病院へ依頼する。また、患者の希望があれば山形市内の病院へ紹介する(件数は少ない)。
- ・ 肝臓・脳腫瘍については、他の病院へ送る。
- ・ 眼科は対応していない。
- ・ 泌尿器科・産科については、リスクが高いケースや手術前・術後の管理が必要なケースは他院を紹介する。
- ・ 手術件数は、5~10例/週(全身麻酔の手術)。

○脳卒中

- ・ 脳神経外科医はいるが、開頭手術については麻酔科医がいないのでここ2~3年やっていない。
- ・ 脳動脈瘤は他病院へ送っている。
- ・ 脳梗塞はここで対応している。最初からここで対応し、回復期は鶴岡協立リハビリテーション病院(櫛引町・156床)へ送っている。

○急性心筋梗塞

- ・ 鶴岡市立荘内病院へ送っている。

○糖尿病

- ・ 専門医が1人いる。
- ・ 透析では、20台を有し、83～90人の患者に当たっている（副院長・内科）。なお、透析は当院がこの地区で一番早く始めたもの。
- ・ 眼科医はいないので鶴岡市立荘内病院へ送るか、または開業医を紹介している。

○小児医療

- ・ 医師は1人のみ。基本的に診療時間内のみの対応で、土日は日当直でオンコール呼び出しをしている。
- ・ 平日夜間も同様の体制で行っている。1日平均患者数は35人位
- ・ 小児病床数は特に定めておらず、入院患者は多くて3人程度

○周産期医療

- ・ 初期医療にのみ対応している。
- ・ 産婦人科は医師2人体制(50代・40代)となっている。
- ・ 出産においては、アメニティ重視の時代なのでなかか患者数が増えない状況にある。

○救急医療

- ・ 救急告示病院になっている。
- ・ 担当の整形外科医は現在入院中とのこと。

○災害医療

- ・ 特別なことは行っていない。

.....
<在宅支援について>

- ・ 訪問リハを実施しており、訪問看護ステーションを有する。
- ・ 在宅診療では、在宅療養支援診療所の届出をしており、100人の患者をカバーしている。
- ・ 市内の大山地区及び三川町に診療所を持っている。ここを退院してから、居住地によりこれらの診療所で対応している。
- ・ デイケアは30人/日、リハビリは40人位/日。デイサービスは二つの診療所(大山、三川)で行っている。

○在宅への展開

- ・ 内科(5人)が中心となって、100人以上の在宅患者を診ている。外科はターミナル患者を診ている。
- ・ 訪問看護ステーション、在宅支援センターが隣接されている。
- ・ 居宅介護、ショートステイ、デイサービス、レンタル用品などの分野の展開を進めている。

○医師の状況

- ・ 医師17人(内科:7人、外科:3人、産婦人科:2人、脳神経外科:1人、整形外科:1人、小児科1人、皮膚科1人、心臓血管外科1人)、他に後期研修医1人
- ・ 標準医師数は100%をクリアしている。

○患者動向

- ・ 244床(一般222床、療養22床)を有し、平均稼働病床数は、190～200床。病床利用率は80%
- ・ 隣接のクリニックでは慢性疾患の診療及び療養指導を中心に行っている。また、フィットネス・生活習慣病指導も手がけている。そこには、運動療養士、保健師、栄養士、医師(専

任は所長のみ、小児科も在勤)を配置している。

- ・ 本院は主に内科診療、急患等に対応している。
- ・ 運動療法をやる場所がないということで、1ヶ月3,500円会費でフィットネスなどが利用できる。
- ・ 紹介率は8~9%、逆紹介率も同じくらいの比率

○医療スタッフ

- ・ 歯科医1人を配置しており、鶴岡協立リハビリテーション病院への往診も行っている。
- ・ 看護師は100%充足している。またここで年間20人を養成している。来年は7:1充足のために日本海病院へ流出するのではないかと危惧している。
- ・ 高看：准看の比率は7:3
- ・ 薬剤師5人(定員7人)、外来は本院及びクリニックとも院外処方としている。
- ・ リハビリのスタッフは30人位を配置している(PT、OT、ST含めて)
- ・ 他に、栄養士4人、検査技師15人、放射線技師6人

○平均在院日数

- ・ 一般病棟が21日位、療養病棟が30日以内

○高齢者住宅

- ・ 32室の高齢者住宅を病院の近くに、11室の同住宅を大山地区に有する。いずれも介護保険から拠出されるもので、介護認定4又は5が対象となる。
- ・ 老老介護、単身者が理由で在宅が困難な高齢者向けとなっている。
- ・ 町づくり事業共同組合「虹」が経営している。
- ・ 建設会社が土地・建物を提供し、病院側は家賃を払うシステムとなっている。
- ・ 高齢者住宅を含む地域ケアサポートを展開していく考えである。
- ・ 三川町にも同住宅を整備する予定。その理由として、会員の多い地域ということがある。

○電子カルテ

- ・ オーダリング(外来分のみ)のみ導入している。

○連携パス

- ・ 脳卒中について、リハビリ病院中心に、鶴岡市立荘内病院を巻き込んで検討をスタートした。

○医療生協組合員のメリット

- ・ 保険外診療(健診など)については10%割引などの特典がある。
- ・ 会費は、入会時のみ2,000円で、その後は年間500円(あくまでも会費の目安)。1人平均5万円を納めているので、全体では20億円ほどの原資を有する。
- ・ ほぼ市内の半分以上の世帯が加入している。
- ・ かつて医療不足の地域だったことから、医療生協がその役割を担ってきたという経緯がある。

診療所対面調査

- (1) 調査日程及び訪問者
- (2) 対面調査記録

(1) 調査日程及び訪問者

No.	圏	設置者	地区	施設名	診療日及び 診療時間	訪問日時	山形大学大学院	山形県	
1	最上	真室川町	釜淵	真室川町立 釜淵診療所	月・木 8:30~16:30 火水金 8:30~12:00	6/6(水)	9:00	佐藤准教授 高橋俊章(院生)	小宮山主査 大類技師
2		真室川町	及位	真室川町立 及位診療所	火水金 13:30~15:30	6/6(水)	11:00	佐藤准教授 高橋俊章(院生)	小宮山主査 大類技師
3		大蔵村	清水	大蔵村診療所	月~木 8:30~16:30 金 8:30~18:30	6/13(水)	10:30	佐藤准教授 高橋俊章(院生)	青山主査 竹田主事
4		戸沢村	古口	中央診療所	月~金 8:30~17:00	6/13(水)	14:00	佐藤准教授 高橋俊章(院生)	青山主査 竹田主事
5	置賜	南陽市	小滝	国民健康保険 小滝診療所	火 9:00~16:00	6/26(火)	13:30	佐藤准教授 渡辺暁子(院生)	竹田主事
6		川西町	上小松	公立置賜 川西診療所	月~金 8:30~17:00	8/9(木)	13:30	佐藤准教授 松浪容子(院生)	竹田主事
7		飯豊町	椿	飯豊町 国民健康保険診療 所	月~金 9:00~17:00 水PM休診	7/11(水)	10:30	佐藤准教授 高橋俊章(院生)	竹田主事
8		飯豊町	上原	中津川診療所	月水金 9:00~12:00	7/25(水)	10:30	佐藤准教授 松浪容子(院生)	竹田主事
9	庄内	鶴岡市	大網	鶴岡市国民健康保 険	月水金 13:30~16:30	6/27(水)	15:00	佐藤准教授 松浪容子(院生)	竹田主事
10		鶴岡市	上田沢	鶴岡市国民健康保 険	月水金 13:30~16:30	6/27(水)	13:00	佐藤准教授 松浪容子(院生)	竹田主事
11		酒田市	飛島	酒田市立病院 飛島診療所	月~金 8:30~17:15	6/17(日) ~18(月)		佐藤准教授 高橋俊章(院生)	國井主事
12		酒田市	升田	酒田市立 升田診療所	木 13:30~15:30	8/2(木)	12:30	佐藤准教授 渡辺暁子(院生)	庄司主査
13		酒田市	北青沢	酒田市立 青沢診療所	火 13:30~15:30	8/2(木)	14:30	佐藤准教授 渡辺暁子(院生)	庄司主査

1 真室川町立釜淵診療所

1 訪問の状況

①日時：平成19年6月6日（水） 9：00 ～ 11：00

②対応者：釜淵診療所 小濱壽彦院長（61歳）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生 高橋
山形県健康福祉企画課 小宮山企画主査、大類技師

2 基本的事項

	項目		備考
1	診療所の位置	真室川町大字釜淵818-2 真室川町役場からはおよそ10Kmのところ に位置しており、釜淵駅からは徒歩5分程 度	役場の出張所と多目的集会所と一緒 になっている
2	地域の状況 (人口、高齢化率、高齢 単身者率、受診者の平均 年齢人口等)	高齢化率は27%程度 高齢者の受診が多いものの、小児や働盛 り世代の受診も少なくはない 釜淵の6km圏内の人口は1,800人。	
3	診療科(実際に診ている 診療科・主な疾病等)	内科(木曜日のみ町立真室川病院より整形 外科の医師が診察に来る)	
4	診療日時	月・木 8時30分～17時00分 火・水・金 8時30分～12時00分	
5	スタッフの状況 (異動状況、充足状況、 派遣元((社)地域医療支 援機構・へき地医療支援 機構等)	医師1名(内科)、但し木曜日のみ町立真 室川病院より、整形外科医師が診察に 来る 看護師2名、事務職員2名	医師は当所に勤務して から17年になる。
6	運営方式 (経営状況)	町立	
7	主な診療機器	レントゲン撮影装置、心電図、末梢血・ CRP検査 (生化学検査については真室川病院にて 検査)	
8	外来患者数(1日)	30名程度	
9	通院手段	バス・自動車・自転車・徒歩	
10	周辺の医療機関	町立真室川病院、真室川町内に開業医 (姉崎医院、姉崎外科医院)	
11	周辺の福祉施設	町立病院と併設、また秋田県湯沢市内 に民間のデイサービスを提供する施設 がある	
12	救急体制、夜間・時 間外の診療体制	町立真室川病院	
13	IT等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)	なし	

3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

一次医療機関としての役割を担っているが、検査といってもエックス線、心電図程度しかないため、真室川病院へ紹介することになる。

しかし、真室川病院自体が、内科医師が不足している状況なので、診療所よりも病院のほうが状況としては深刻である。

また、真室川病院へ入院依頼しても、満床（50床あり）のことが多い状況である

4 他の機関との連携状況

① 医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

後方支援病院としては、県立新庄病院になる。新患で紹介するのはおよそ1割程度で、紹介先は真室川病院と県立新庄病院で5割ずつである。

寝たきりの人や90歳くらいの高齢者は新庄に紹介しにくい。

② 老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

老人保健施設としては、ゆーゆ（真室川病院と併設）、福寿荘があげられる。

釜淵診療所としても、月1回程度往診を実施している（現在は8名、全員寝たきり）

5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

看取りについては、最後まで治療を積極的にやってもらいたいという家族が多いため、看取りは少なくなってきた。

訪問看護をやっている。現在8人、全員寝たきり。

6 その他

① 新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

小児医療、周産期医療については県立新庄病院が担ってもらっている。あとは新庄市内の開業医の先生が診察をしているが、今後開業医の先生がいなくなることが懸念される。

② 代替医、集約化、医師確保について

真室川病院自体が医師不足なので、代診医を派遣してもらっている状況であることから、診療所までは手が回らないであろう。

現在、自治医大の卒業生が中心となってへき地医療を担っているが、自治医大だけでは需要に見合わなくなってきていると思われる。

実際、真室川町自体も過疎化が激しく、町に住んでいた人も新庄市や東根市、天童市といったところへ転出している状況であり、そもそも人が集まらないところには、医師も当然ながら集まらないと思う。

今後は、都会で開業するためのキャリアとして、一定期間公立の診療所で勤務してプライマリケアを学ぶことができるということや、人とのコミュニケーションを身につけられるといった、公立診療所での勤務のメリットをもっとアピールすればいいのではないかと。

③ 診療報酬改定に対する意見

④ その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

患者さんへのインタビュー 1

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 29歳 ③住所(地域名) : 釜淵
④家族構成(単身等) 両親、夫、子ども(5人家族)

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 今回は風邪で受診 【持病等による継続受診ではない】
②受診頻度 : 風邪などでよく利用している。(年間10回程度)
③交通手段(状況) : 自転車、徒歩
④2次医療機関 : この診療所から紹介されたことはない。
⑤時間外等の対応 : 町立真室川病院を利用。県立新庄病院へは行かない。
⑥医療で困っていること。(診療所への希望)
医師の数を増やしてほしい。及位診療所へ出張して休診になるのが不便。
⑦健診(検診)の受診状況 : 職場での健診を受診。また、町で実施する健診も活用している。
⑧その他

患者さんへのインタビュー 2

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 84歳 ③住所(地域名) : 釜淵
④家族構成(単身等) 娘の夫(2人暮らし)

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) :
内科系の持病の薬をもらいに通院(腸が詰まって便が出ないことがある。)
②受診頻度 : 2週間おきに受診
③交通手段(状況) : 自転車
④2次医療機関 : 症状が悪化すると県立新庄病院に紹介される。入院の場合もある。
⑤時間外等の対応 :
⑥医療で困っていること。(診療所への希望)
診療所がなくなると大変困る。町立真室川病院へはタクシーで6千円程かかるし、バスは不便である。
⑦健診(検診)の受診状況 : 健診は特に受けていないが、定期的に新庄病院で検査している。
⑧その他
同居している義理の息子は、診療所ではなく県立新庄病院へ、月2回通院している。(高コレステロール)

患者さんへのインタビュー 3

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 78歳 ③住所(地域名) : 釜淵
④家族構成(単身等) 2人(本人・娘)

2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 内科(高血圧症)
②受診頻度 : 月1回程度
③交通手段(状況) 自家用車(送迎してもらって)5分

- ④2次医療機関： 町立真室川病院 ・ 県立新庄病院
- ⑤時間外等の対応： 救急車にて搬送してもらう（本人は利用していない）
搬送先： 真室川病院、県立新庄病院

⑥医療で困っていること。（診療所への希望）

特になし、診療所があるおかげで安心して生活できる。とても助かっている。今のところ困っていることはない。

- ⑦健診（検診）の受診状況
- ⑧その他

患者さんへのインタビュー 4

1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 72歳 ③住所（地域名）： 釜淵
- ④家族構成（単身等）3人（本人・夫・息子）

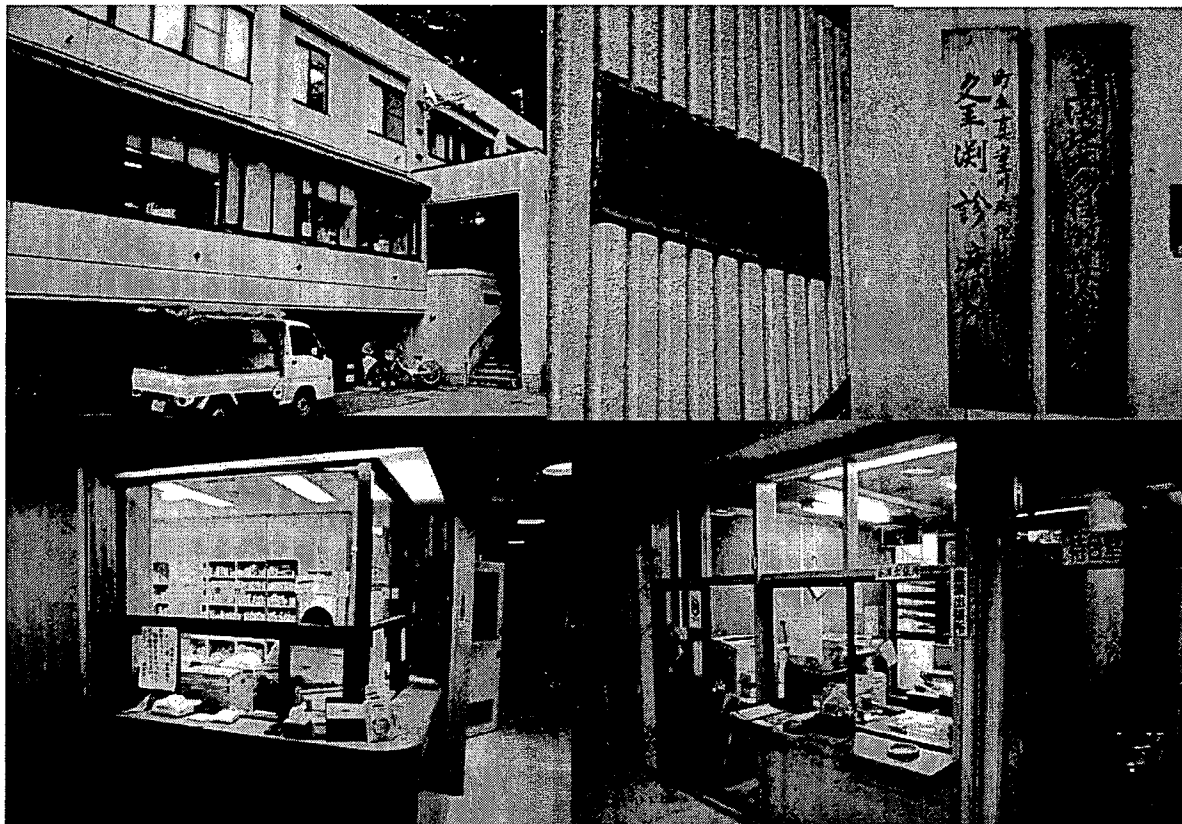
2 利用状況

- ①診療科（今回、通常）： 内科（ぜんそく）
- ②受診頻度： 月1回程度
- ③交通手段（状況） 自家用車（送迎してもらって）5分
- ④2次医療機関： 町立真室川病院 ・ 県立新庄病院
- ⑤時間外等の対応： 救急車にて搬送してもらう（本人は利用していない）
搬送先： 真室川病院、県立新庄病院

⑥医療で困っていること。（診療所への希望）

特になし、診療所があるおかげで安心して生活できる。とても助かっている。今のところ困っていることはない。

- ⑦健診（検診）の受診状況
- ⑧その他



2 真室川町立及位診療所

1 訪問の状況

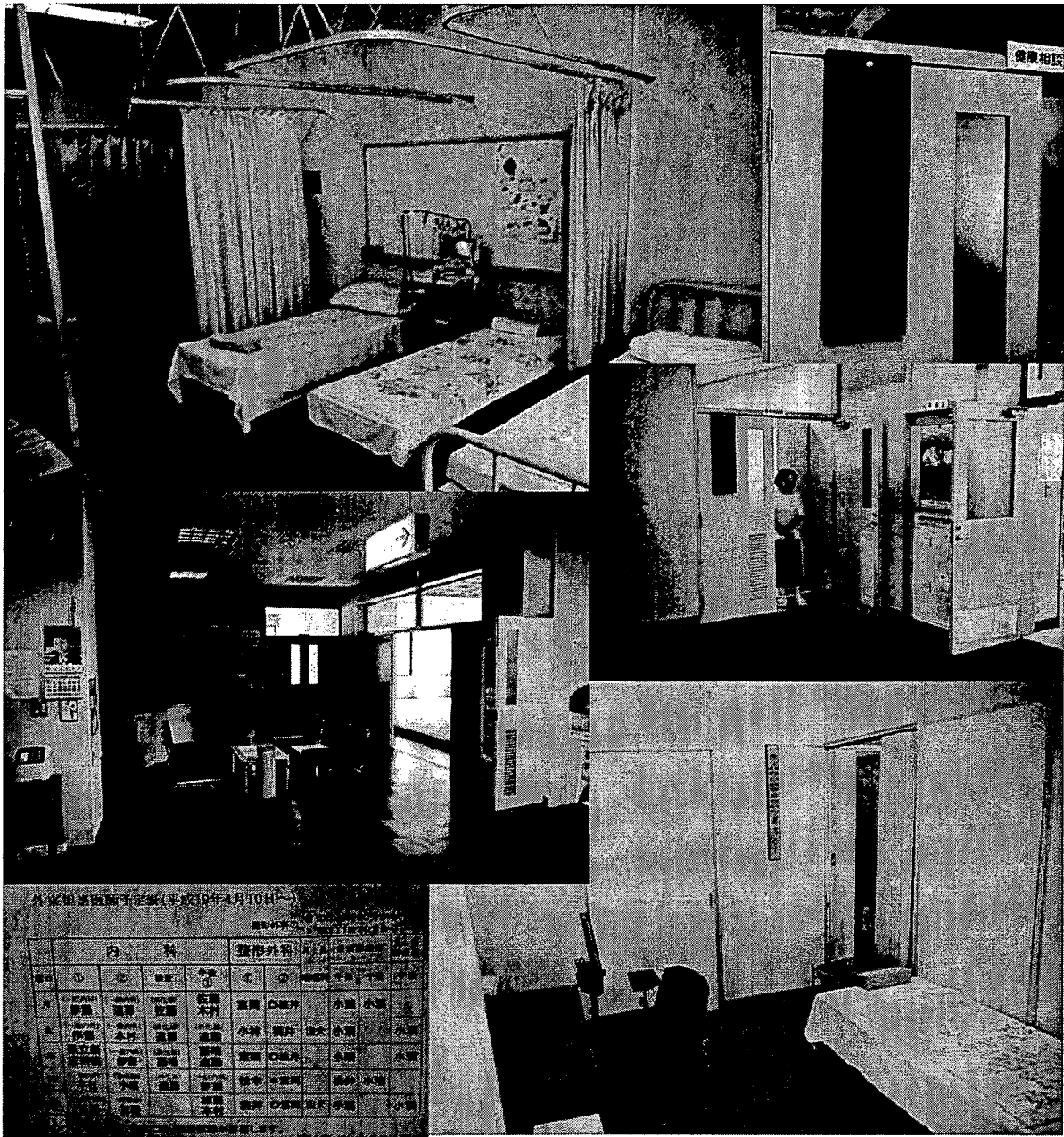
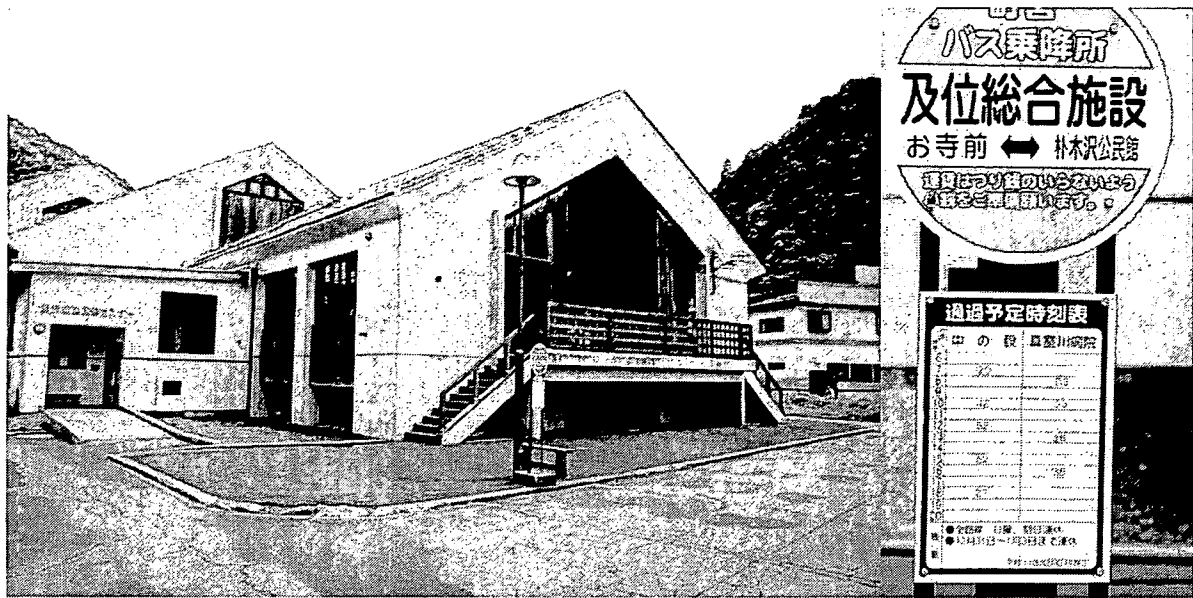
①日 時：平成19年6月6日（水）

②対応者：釜淵診療所 佐藤健治主査

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生 高橋
山形県健康福祉企画課 小宮山企画主査、大類技師

2 基本的事項

	項 目		備 考
1	診療所の位置	真室川町大字及位 424-19 新庄病院まで50分、町立病院のほうが若干近い 町の出張所がある。	
2	地域の状況 (人口、高齢化率、高齢 単身者率、受診者の平均 年齢人口等)	釜淵より若干少ない人口。 高齢者の単身世帯が多い。 小学校は釜淵と統合になった	
3	診療科(実際に診ている 診療科・主な疾病等)	内科	
4	診療日時	火・水・金 13時30分～15時30分 時 分 ～ 時 分	
5	スタッフの状況 (異動状況、充足状況、 派遣元((社) 地域医療支 援機構・へき地医療支援 機構等)	医師1名(内科)、看護師1名、事務職員1名 常勤の看護師1名(70歳台)がいる ここを開院しているときは、釜淵診療所は休み	
6	運営方式 (経営状況)	町立	
7	主な診療機器		
8	外来患者数(1日)	10名程度	
9	通院手段		
10	周辺の医療機関		
11	周辺の福祉施設		
12	救急体制、夜間・時 間外の診療体制		
13	I T等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)		



3 大蔵村診療所

1 訪問の状況

①日 時：平成19年6月13日(水)10:30~11:30

②対応者：荒川光昭 (46歳) (平成3年~)

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生 高橋
山形県健康福祉企画課 青山主査、竹田主事

2 基本的事項

	項目	
1	診療所の位置	大蔵村大字清水 2325-3 村役場・消防署と隣接、小中学校も近い
2	地域の状況 (人口、高齢化率、高齢 単身者率、受診者の平均 年齢人口等)	人口：4,115人(H18.10.1)、高齢化率：30.6%、高齢単身者率：高い(高 齢者の夫婦も多い)、受診者の平均年齢人口：70歳以上
3	診療科(実際に診ている 診療科・主な疾病等)	内科・外科(総合医)皮膚科、小児科も診ている。対応できなければ紹介す る。 歯科(予約のみ)
4	診療日時	月~木 8時30分 ~16時30分 金 8時30分 ~18時30分 ※午後は14:00から、水曜は午後会議・検査
5	スタッフの状況 (異動状況、充足状況、 派遣元(社)地域医療支 援機構・へき地医療支援 機構等)	・内科 医師2名、看護師5名(正職員4)、薬剤師1名、助手1名、事務職員2 名(正職員1) ・歯科 医師1名、技工士1名、歯科衛生士3、レセプト業務1名
6	運営方式 (経営状況)	大蔵村立 経費：住民1人当たり1万円程度の赤字(3千万円から4千万円)
7	主な診療機器	CT、エックス線、エコー 上部下部内視鏡 肺がん健診としてCTを活用
8	外来患者数(1日)	平均90人程度
9	通院手段	村営バス、徒歩、タクシーがあるが、ほとんどが車
10	周辺の医療機関	村内にはなし
11	周辺の福祉施設	特別養護老人ホーム翠明荘、80床、ショートステイ20床、デイサービス
12	救急体制、夜間・時 間外の診療体制	新庄病院・新庄徳洲会病院 (診療所での夜間・時間外は行っていないが、電話が来ることもあり)
13	IT等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)	なし(歯科は電子カルテ導入)